

男子ハンドボール競技における世界トップレベルのセンタープレイヤーの 得点能力に関する研究

—ニコラ・カラバティッチ、ダリボー・ドゥデアアの2選手に着目して—

伊東 裕希 (200911898、ハンドボール方法論)

指導教員：山田 永子、會田 宏、藤本 元

キーワード：センタープレイヤー、シュートプレー

【目的】

本研究では、バックコートプレイヤーのなかでも、特にセンタープレイヤーに着目する。センタープレイヤーの役割としては、ゲームの状況を的確に把握してゲームメイクをすること、みずからのシュートで直接得点をあげること、チャンスを作って味方に有効なアシストパスを送ることなどがある。攻撃において重要な役割を担っているセンタープレイヤーであるが、現在、センタープレイヤーに関する研究がほとんどされていない。

そこで、世界で活躍するセンタープレイヤーを対象に、最終依存率・最終成功率、シュートプレー中の動きを分析、考察し、世界トップレベルにおけるセンタープレイヤーのシュートプレーの特徴を明らかにすることを目的とする。

【方法】

カラバティッチについては、2011年男子世界選手権大会5試合、2010年男子ヨーロッパ選手権大会2試合の計7試合を対象とし、ドゥデアアについては、2011年男子世界選手権大会5試合、2010年男子ヨーロッパ選手権大会2試合の計7試合を対象とする。

シュートプレーに関するプレー要素は、ボール保持の助走、ボール保持の瞬間、ボール保持中の助走、シュートの4つに分類し、プレー要素ごとに項目間の生起率を比較する。統計的検定に関しては、有意水準を5% (両側検定) とし、Fisherの正確確率法を用いて比率の差を検定する。3つ以上の項目間で有意差が認められる場合には、Ryanの法により有意水準を調整して多重比較を行う。

最終依存率・最終成功率に関しては、最終依存率の基準を15%、最終成功率の基準を43%として選手を4つのタイプに評価する。

【結果と考察】

カラバティッチとドゥデアアの特徴が以下のようになった。

1. カラバティッチの特徴

・最終依存率が17.9%、最終成功率が44.5%とどちらも高い選手と評価できる。

・防御者に反応された状態、また接触されながらもシュートまでいくことができ、そのなかでGKの逆をつく高い技術がある。

・防御者を把握できる体勢で、接触されない距離感を重要視してプレーしていることが考えられる。

・ドリブルを状況に応じて使い分けていることが予想され、フェイントをかけず、ゴール方向か利き手側へ仕掛けることが多い。

・遠い距離からも近い距離からもシュートを打ち、ほとんどのシュートがジャンプシュートでシュート成功率が高い。

2. ドゥデアアの特徴

・最終依存率が15.4%と高く、最終成功率が41.2%と低い選手と評価できる。

・防御者に接触されない場面でのシュートが多い。防御者に接触されないロングエリアで、ゴールに対して正面を向いてボールを受けている。

・ドリブルをあまり使わず、ゴールに対して正面に向かってシュートプレーを仕掛ける。

・ジャンプシュートとステップシュート、2つのステップパターンを使い得点を狙っている。

【結論】

本研究では、世界トップレベルのセンタープレイヤーであるカラバティッチとドゥデアアのシュートプレーの特徴を明らかにすることを目的とした。2人のシュートプレーの共通の特徴は、以下の通りである。

・ボール保持の瞬間の位置がロングエリアであることが多く、また防御者に接触されない位置でボールを受けることが多い。

・ボール保持中にフェイントしないことが多い。

・3歩使うプレーをすることが多い。

・シュートの種類がロング、ミドルシュートが多い。

・ステップパターンはジャンプシュートが多い。

・上半身は直立であることが多い。

・オーバーハンドでのシュートが多い。

・GKが誤りの方向に反応することが多い。